

予算特別号

令和3年度

SDGs、新しい時代へ
しなやかで強靱なまちづくり

新時代福知山をさらに進化
未来に向かって**挑戦**



新型コロナウイルス感染症対策

ワクチン接種の円滑な実施とともに、国や京都府の支援策に本市独自の施策も加え、市民の健康とくらし、地域の経済や雇用を守る取り組みを進めます。



画像はイメージです



新型コロナワクチン接種コールセンターの様子

新型コロナウイルスまん延防止のため、国は医療従事者、高齢者などへ順にワクチン接種を進めています。

本市においても、円滑な接種を行うために、対策本部にワクチン接種部を設置し、全庁的に取り組んでいます。

また、接種のスケジュールや予約方法などの問い合わせにスムーズに対応するため、コールセンターを開設しています。

**感染症のまん延防止へ
円滑なワクチン接種を実施**
〔2億2459万円〕

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、独自の授業料減免を行う福知山公立大学を支援し、学生が学び続けられる環境を支えます。

**長期化するコロナ禍で
大学生の学びを支援**
〔1429万円〕

**雇い止めの人を優先採用
繁忙部署で雇用へ**
〔1367万円〕

感染症対策で繁忙となる部署へ、コロナ禍の影響で解雇・雇い止めとなった人を優先して10名程度採用し、雇用を創出します。

このほか、令和2年度から継続して、高齢者の衛生用品の購入やコロナ禍に対応する中小企業の支援、小中学校で使用する空気清浄機購入などを実施しています。

しなやかで強靱なまちへ —令和3年度予算—

コロナ禍で加速する社会の変容、凄まじいスピードで進む技術革新や更なる取り組みが求められる気候変動対策など、私たちの生活を取り巻く状況は大きく変化しています。

世界規模の変化を観察しながら臨機応変に対応する「しなやかさ」と、安心・安全な市民生活を確実に守る「強さ」を併せ持つまちを目指して、3つの重点テーマと7つのまちづくりを推進します。

- 重点テーマ**
- ◇新型コロナ対策
 - ◇ゼロカーボン・再エネ100
 - ◇スマートシティ
- 次のステップへ**
- ◇7つのまちづくり

令和3年度当初予算

予算総額	865.9 億円	+6.1 億円 (+0.7%)
一般会計	401.0 億円	+0.8 億円 (+0.2%)
特別会計	192.7 億円	+0.1 億円 (+0.1%)
企業会計	272.2 億円	+5.2 億円 (+2.0%)

(表の右側は前年度比)

**感染症対策をとりつつ
未来に向かって挑戦**

一般会計の予算総額は401億円です。新型コロナウイルス感染症対策に加え、あらゆる産業界が注目する「脱炭素」に向けた取り組みや、情報通信技術の活用に挑戦するための政策予算を盛り込みました。

特別会計は、農業集落排水施設事業の増加などで総額0・1億円の増加となりました。

企業会計では、水道事業会計が1・8億円、病院事業会計が5・6億円増加し、総額で5・2億円の増加となりました。

環境部門の司令塔

「エネルギー・環境戦略課」を新設

環境に配慮したまちを目指すため、脱炭素社会の取り組みを戦略的に推進します。庁内の司令塔となり、環境政策や再生可能エネルギー、エコオフィスなどに横断的に取り組みます。



昨年10月から、再生可能エネルギー由来の電気に切り替えた福知山城

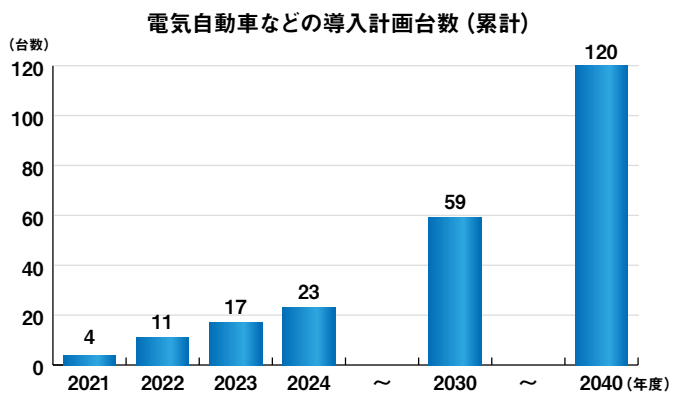
市庁舎や公園などでLED化
省エネルギーを推進

【計8944万円】

市庁舎の約1500灯、道路や公園で約1400灯をLED照明に交換します。また、小中学校の体育館の照明は、令和6年度をめどに計画的にLED化を実施します。



事務室の照明をLED照明に交換する市庁舎



2040年を目標に、特殊車両を除くすべての公用車120台を、電気自動車や、ガソリンと電気を併用するプラグインハイブリッド車などへ計画的に更新します。計画の初年度となる今年には4台を更新します。また、電気自動車などは、CO₂排出量削減だけでなく、災害時の停電や、屋外イベントで非常用電源としても活用します。

公用車を電気自動車などへ
更新期の車から順次導入
【1921万円】

ゼロカーボンシティ 再エネ100%への挑戦

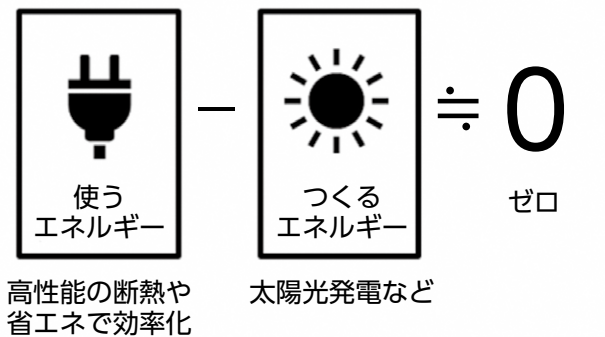
社会の共通課題であるSDGsに取り組むため、市域での2050年CO₂排出量実質ゼロと、再生可能エネルギー100%を目指します。



SDGs…貧困や飢餓だけでなく、気候変動や経済格差など、世界全体の課題を解決するために、国連で採択された2030年までの目標です。

ゼロカーボン…企業や家庭から出るCO₂などの温室効果ガスを減らして、森林が吸収する分と相殺して、実質的な排出量をゼロにすることです。

ZEH（ゼロ・エネルギー・ハウス）のイメージ



住宅での再エネ・省エネの取り組みを支援
【3504万円】

家庭での太陽光発電などの導入に最大15万円を補助し、再生可能エネルギー普及を推進します。

また、年間の使う・つくるエネルギー量が実質ゼロの住宅ZEH（ゼロエネルギーハウス）を市内の中小工務店で建築した人へ20万円の補助金を交付します。

ZEHを学ぶセミナーの開催で普及にも取り組み、エネルギーの地産地消を推進します。

大学の強みを活かして 課題解決や研究に挑戦

【4768万円】

福知山公立大学では、京都工芸繊維大学と協力して、地域の課題解決に繋がる研究や連携事業で「知の拠点」づくりを推進します。新しい取り組みでは、人工知能やセンサーなどの情報技術を防災に活かす「地域防災研究センター」や、統計や情報科学を地域の課題解決に繋げる「数理・データサイエンスセンター」を設立します。

市民が学びを深める場所へ

小中学生やシニア世代を対象に、プログラミングなどの情報教育を学ぶ機会をつくり、ICTが普及する社会で誰もが活躍できるよう幅広い世代に向けた人材育成に取り組めます。

また、公立大の公開講座をオンラインで配信し、多様な学びができる環境を整備します。

いのちを守るために

避難に繋げる具体策を推進

【745万円】

令和元年度・2年度に取り組んだ「福知山市避難のあり方検討会」の最終とりまとめに基づき、避難に繋がる情報発信や要配慮者の避難、避難場所、防災教育の各テーマの対応策について、具体的な取り組みを進めます。

過去の災害状況を踏まえたモデル地区での浸水検知センサーを活用した情報発信や、タブレットを活用した災害時の情報共有などの検証に取り組めます。また、要配慮者の避難計画の策定や、避難場所への感染症対策物品の配備を拡充します。



水路の横に設置した浸水検知センサー



有害鳥獣対策で活用

生息密度などの見える化へ

【1362万円】

先進的な有害鳥獣対策の知見を持つ兵庫県立大学と連携し、新たに購入する70台のセンサーカメラを使用して、シカやイノシシの生息密度調査を行います。収集したデータなどを見える化するシステム構築に取り組み、効果的な対策の実施に繋がります。

また、タブレット端末を配布したモデル農区では、使い方などの研修を行いながら、活用を進めます。

中山間地での実証実験

集荷・出荷の効率化へ

【2014万円】

中山間地が多い本市独自の取り組みとして、公立大や企業と共同で農作物の集荷や出荷の効率性を高める実証実験に取り組めます。

また、ICTやロボット技術などの先端技術の機械を導入する団体や認定農業者などに補助金を交付して支援します。



だれもが安全で便利に スマートシティの実現

ICT（情報通信技術）で便利になる社会の中で、誰もが安心・安全にそして、快適に暮らし続けられるまちを目指します。福知山公立大学をはじめ様々な機関と連携して取り組みます。

スマートシティ…情報通信などの先端技術の活用で、地域や生活の課題を改善していく、持続可能なまちのことです。



スマホなどの使い方を学ぶ

市民講座を開催

【145万円】

公立大情報学部教員と学生が講師となり、スマートフォンやタブレットなどのICT機器の使い方、連続講座を開催します。中央公民館と各地域公民館で3回の連続講座を実施し、初回は基礎となる文字入力や通話の手順を学びます。また、本市が情報を発信するラインやフェイスブックのほか、新たに導入する防災アプリを実際に使用して、便利な機能に触れていきます。

7つのまちづくり



発信力のある 魅力あふれるまちに

コンセプトは「光秀マインド」
多様な地域資源をPR

【3734万円】

「光秀マインド」とは、明智光秀の時代から現代へ、脈々と受け継がれてきた福知山市に息づくまちづくりへの挑戦心を表現したものです。

「明智光秀が築いた城下町」のブランドを最大限活かしつつ、「鬼」など本市が持つ多様な地域資源にも磨きをかけ、関係・交流人口の拡大で地域活性化を進めます。

農業者などの挑戦を支援
エエもん認定素材の発信を強化

【1381万円】

未来を切り拓こうとする意欲ある農業者などを支えるために「ふくちやまのエエもん」の発掘や情報発信を実施します。エエもんの情報発信では、専用ウェブサイト作成やエエもん認定素材を使用したデイナー会を開催します。

また、GAP認証経費の補助などで新規取得を支援します。

鉄道の歴史を伝える
観光施設のコンテンツ製作へ

【4495万円】

休館している「福知山鉄道館ポップランド」の建設・運営資金として寄附された2億円を活用し、「鉄道のまち」の歴史継承や観光誘客施設の建設に向けた取り組みを進めます。仮想空間で蒸気機関車の投炭を体験できるソフトウェア開発などに着手します。

SDGsに呼応した 持続可能なまちに

障害のある人の雇用促進へ
目標は就労者数1000人

【471万円】

障害のある人が誇りを持って働くまちづくりを進めるために「障害者雇用1000人のまちづくりプロジェクト推進会議」を開催し、雇用促進や支援に取り組みます。雇用の実態調査や、働く意欲のある人と仕事をつなぐ支援体制の整備を進めます。また、通勤に課題のある人には、支援策を検討してモデル事業を実施します。

多様な学びを支援
不登校の支援体制構築へ

【346万円】

不登校やその傾向にある児童生徒に、自分らしさを大切にしながら、自己実現を支援するための体制を整備します。また、不登校相談窓口の将来的な開設に向けて、本市で新たに社会福祉士を採用し、支援強化に取り組みます。

平和と人権の大切さを
発信できる人材を育成

【133万円】

「共に幸せを生きる」共生社会の実現に向け、互いを認めあう人権尊重のまちづくりをめざし、いのち輝きゆめプランに基づく人権施策を展開します。また、未来を担う高校生などに、沖縄や長崎、世界の平和学習を実施し、平和の大切さを発信できる人材を育成します。

誰もが健康で 生きがいあるまちに

活動的で元気な地域へ
健康増進を企業などと推進

【986万円】

健康づくりに賛同する企業や団体の参加で組織をつくり、それぞれの取り組みの成果に応じて褒賞金を提供する仕組みづくりを進めます。初年度は、取り組みの着手に必要な経費を支援します。

手術ロボットを導入
大江分院は遠隔医療を実施

【病院事業167億7740万円】

多様化・複雑化する患者のニーズに対応するため、新たに手術用ロボット装置を導入します。また、大江分院では、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、利用者の需要調査を目的に遠隔医療を実施し、運営の効率化などで安定経営を目指します。

高齢者の保健事業を一体化
身近な地域での支援充実へ

【185万円】

高齢者の多様な心身の状態に、きめ細やかな支援を行うため、介護保険の地域支援事業や国民健康保険・後期高齢者医療保険の保健事業を一体的に実施します。保健師1名が企画担当として全体をまとめ、9つの日常生活圏域では、地域を担当する保健師や栄養士などの専門職が個別支援やフレイル予防に取り組みます。

住み慣れた地域でくらしを支える 「地域包括ケア推進課」を新設

医療や介護、生活支援などの地域の包括的な支援体制を構築するために、専門部署を設置します。9か所の地域包括支援センターを統括し、きめ細やかなサービス提供に取り組みます。また、将来的には、高齢者だけでなく、障害のある人や、生活困窮者などを支援する地域づくりを進めていきます。

住み続けられる まちに

由良川流域の内水対策
ポンプ場や調節池を整備

【4億5600万円】

由良川支流の内水被害が発生しやすいことから、大江町公庄、河守地区で排水ポンプや調節池を整備し、被害軽減に取り組みます。令和4年度の出水期までに毎秒1トンのポンプ場を整備し、排水ポンプ車の活用と併せて排水機能を確保します。

市民の命と財産を守る
救急車や積載車を更新

【6311万円】

増加する救急出動に迅速に対応するため、老朽化した高規格救急自動車1台を更新します。また、消防団車両でも、老朽化した小型ポンプ付積載車を4台更新します。



大江町の排水ポンプ建設予定地

質の高い子育てと 学びのまちに

教育内容の充実に向けて
学力以外の能力評価を試行

【582万円】

学力テストだけでは測れない、コミュニケーション能力などを評価する調査を試験的に実施し、公立大による分析や児童生徒への指導に活用します。

より豊かな感性を育むために
本物の芸術・文化を体験

【1740万円】

幅広い学びで豊かな感性を育むことを目指して、小学4年生は博物館などを、中学1年生は演劇を鑑賞します。

また、各校で実施する体験活動の環境を整備するために、経費の支援やスクールバスの運行を実施します。



認定こども園になった三和保育園

保育環境の充実へ
認定こども園化を推進

【26億7302万円】

民間認可保育所へ保育を委託するとともに、認定こども園などに給付を行い保育環境の充実を進めます。

三和保育園が公立で初めてとなる認定こども園になるほか、みのり保育園と修斉保育園では認定こども園化が予定されています。教育面も備えた保育や保護者の就労条件を問わない、子育てしやすい環境を整備します。

産業集積と 技術革新のまちに

先進的な企業の誕生を促進
起業家・投資家に学ぶ

【10300万円】

福知山公立大学で開催する先進地の起業家などの講演や、全国で活躍するトップクラスの講師による起業家育成プログラムを実施します。

これらの取り組みを通じて、市内の事業者と、先進地の人や企業がつながるネットワークを構築し、新たな企業の誕生や多様な産業の集積を促進します。



工業団地の操業環境を守る
街路樹などを伐採

【計5748万円】

路面の凹凸の原因となる街路樹や企業敷地まで伸びた樹木など、およそ600本の伐採を実施し、長田野工業団地の操業環境を改善します。



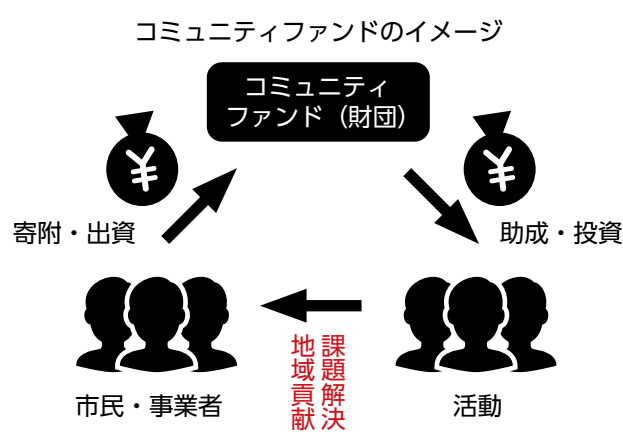
樹木を伐採した長田野工業団地

対話とパートナー シップのまちに

市民が主体のまちづくり
課題解決への挑戦を支援

【366万円】

市民が主体となった地域の課題解決や活性化への取り組みを、市民の寄附で支える「福知山版コミュニティファンド」の構築を進めます。初年度は検討委員会を開催し、事例の研究や目指す姿の検討を行います。



地域の声を踏まえ
道路などの安全対策を実施

【4700万円】

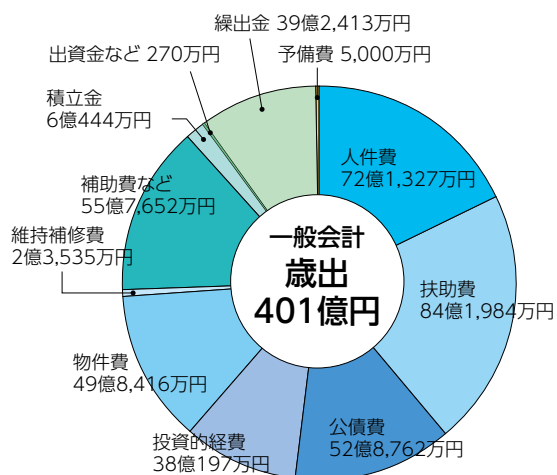
自治会からの道路や橋などの安全対策の要望を踏まえ、特に危険性の高い所を優先して集中的に安全対策を実施し、地域の安全・安心を確保します。

また、市長自らが地域の現場を歩いて課題を把握する「地域を歩く事業」を引き続き実施し、地域の実情に応じた施策の推進に役立てていきます。



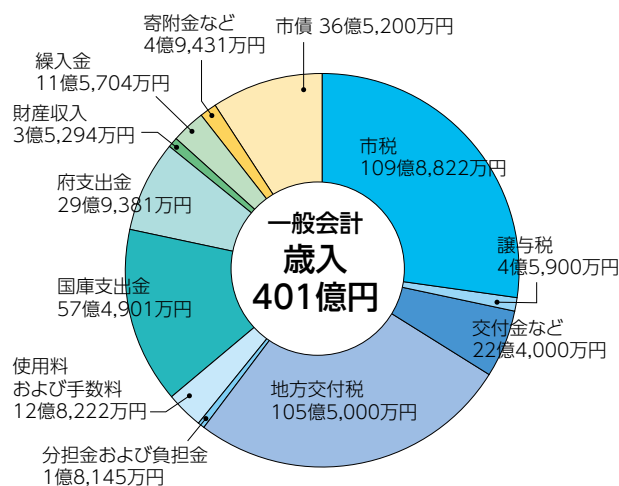
中央分離帯を整備し、見通しが改善したけやき通り

令和3年度予算の概要



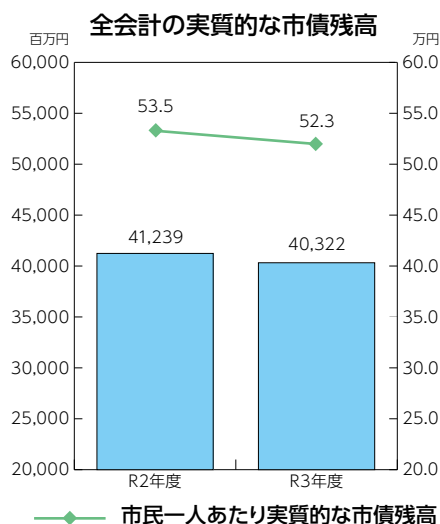
経常的経費は4.6億円の増加

扶助費や人件費などの固定の支出となる経常的経費では、下水道事業や病院事業への繰り出しが増えたことなどで4.6億円の増加となりました。



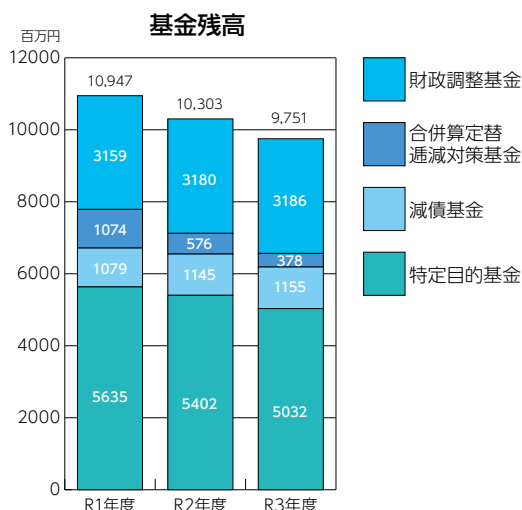
市税はコロナ禍で7.8億円の減少

地方交付税や基金の繰入金などは増加しましたが、市税はコロナ禍の影響を大きく受け総額7.8億円の減収を見込んでいます。



実質的な市債残高は9.2億円の減少

全会計の実質的な市債残高見込は403.2億円となり、市民一人あたりでは1.2万円減少しました。



基金残高全体で5.5億円の減少

集会施設の民間譲渡やKTR支援事業への繰入などで特定目的基金では3.7億円の減少を見込んでいます。

複雑・高度化する行政課題に対応できる組織へ プロフェッショナルな人材を6人採用

■弁護士

2人体制で組織の法務能力を強化。

■司法書士

地籍調査や用地利活用などを推進。

■鳥獣対策員

鳥獣対策の立案や効果検証などを実施。

■ANAグループからの派遣

観光・産業振興や物販の販路拡大を推進。

■社会福祉士

不登校児童生徒の寄り添い支援などを実施。

■元気象予報官

気象・防災の啓発や災害対策本部の支援。